

委託事業実施内容報告書

平成 22 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

《日本語教室の設置運営》

受託団体名 堺市中国帰国者交流会

1、 事業の趣旨、目的

当地（堺市泉北ニュータウン）には、中国からの帰国者が多く住みついており、その数 2,000 人余りと言われ、今でもなお中国に居る家族の呼び寄せが続いています。家賃の安い公営住宅が多いことと、中小企業が多く、割合仕事が見つけ易いことが理由とおもわれます。しかし彼らにとって日本人社会に溶け込むことは容易ではありません。特に最大の難関は言葉です。仕事を見つけるにも、子供の教育にも、病院に通うにも、言葉です。また日本語が理解できぬため、日本人居住者とトラブルを起こすこととなります。このことから、日本人居住者から、排斥運動さえ起こっています。

この解決の為に、16 年前から堺市中国帰国者交流会を立ち上げ、運動の中心に日本語教室を開いています。学費は無料で、希望者は全員受け入れる、学習者の能力に合わせたマンツーマン方式で、生活用語を覚えることに重点を置いて行っています。教える側はほとんど手弁当同然のボランティアです。

日本語教えながら、色々な生活上の悩み、問題の解決にも乗っています。いわば教室と言うより、相談室の感があります。

昨今、日中間は面白くない事態が続発していますが、我々の、この草の根の運動が、少しでも、問題の解決になり、友好関係が復活することを念願して、続けていく覚悟です。

2、運営委員会の開催について

《概要》

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
平成 22 年 5 月 14 日	ビッグアイの 集会室	岡田、高橋、 仲島、孫、梅 沢、清水、松 尾、青木	生徒の著増に 如何に対処す るか。	学費を取る（月 500 円、小学生は 断る、教師を探 す。
平成 22 年 9 月 12 日	ビッグアイの 集会室	岡田、高橋、 仲嶋、孫、梅 沢、清水、有 川、松尾	教師の退会に 如何に対処す るか。	謝礼が少なすぎ る、月 6,000 円と する。教師の補充 を図る
平成 23 年 1 月 16 日	泉ヶ丘図書館 集会室	岡田、高橋 仲嶋、梅沢、 青木、松尾 清水、許	22 年度の見通 しについて	昨年末から生徒 が減っている。 何故か？生徒の 勉強継続の方策 は。新年度から 出席率の良い生 徒に表彰を出す。

3. 日本語教室の開催について

① 日本語教室の名称

堺市中国帰国者交流会 日本語教室(別称 泉ヶ丘日本語教室)

② 開催場所

堺市南区茶山台堺市市民センター内南図書館集会室

③ 学習目標

大学や専門学校の日本語学習ではない。でき得る限り即役に立つ生活用語の習得が目標です。学習者も老若男女、職業も様々です。中国で受けた教育水準も大差があります。教える側は生徒の要望に応え、全くの初心者はいウエオから、上級者には日本語検定に挑戦を目指して教えます。

④ 使用した教材、リソース

みんなの日本語 初級 I II 中級	スリーエーネットワーク
日本語能力試験 3.4 級	アルク
日本語能力試験 読解編 2 級	ユニコム
関西弁入門	アルク
標準日語	中国 世界図書出版公司
敬語日本語	中国 外語教学與研究出版社

他は教師が自分で作製のもの多数です。

⑤ 受講者の募集方法

概ね帰国者の口コミに依りますが、行政の窓口での広報で知らせています。又色々なイベント活動を通じ、存在をアピールしています。募集のチラシではありませんが、三か月分の予定表を出しています(添付)

⑥ 受講者の総数 73 人 (受講人数) (添付名簿通り, 部外秘)

⑦ 開催時間数 (回数) 96 時間 (全 48 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

別表通り

堺市中国帰国者交流会 日本語教室
予定表 (泉ヶ丘教室)

授業時間 (上课时间)

日曜日 午前 10 時～12 時

(星期天 上午十点到十二点)

場所 南図書館 3 階 集会室

実施日

『8 月』 1 日 8 日 15 日 22 日 (29 日没课)

『9 月』 5 日 12 日 19 日 26 日

『10 月』 3 日 10 日 17 日 24 日 (31 日没课)

如不能上课，请联系给老师！

欠席の場合は先生に連絡してください。

联系电话号码 (冈田) 072-298-1659

⑩活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語	来日年数	参加回数	当該教室での役割
仲嶋華子	中国語	20年	40回	通訳 補助
高橋義江	中国語	17年	40回	通訳 補助
中 孝子	中国語	15年	30回	通訳 教授
青木美沙子	中国語	16年	30回	補助(事務処理)

⑪支援者名簿

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
北川福太郎	無	元民生委員であり当該交流協会の設立者	随時	アドバイザー

岡田 進		全般	教授者	代表
稲田 幸子		初級担当	教授者	講師(主婦)
松尾 絹代		中級担当	教授者	講師(主婦)
安井ひとみ		中級担当	教授者	講師(主婦)
豊田 辰之		中級担当	教授者	講師(エンジニア)
藤川 昭子		初中級担当	教授者	講師(教師)
永島 勲		全般	教授者	講師(通訳)
奥野 勝		全般	教授者	講師(エンジニア)
松本 幸広		年少者担当	教授者	講師(元教師)

⑨特徴的授業風景

1) 日時 22年7月25日

飛び込みで52歳の男性が参加してきた。帰国二世だ。日本語は全くできない。就職は日本語の理解が理解できねば無理だ。聞けば、中国でほとんど教育を受けていなし、従ってピン音（ローマ字）も判らない。「あいうえお」から教えるにしても、口から口へ教えるしかない。本人は意欲はありそうなので、中国語のできる先生をマンツーマンで貼り付けることにする。年齢も高いので、「あいうえお」理解まで可なり時間がかかりそうだ。同じ教室で片方では高級班が検定1級2級を目指している、片方で全くの初心者が口伝えで勉強する。中級班の七人が黒板を最前列で占領するので、他の班は黒板が利用できない。やむ得ず紙に字を書いて教えている。せめて二教室が使えると効果が上がるのだが。上級班は聴力を高めるため、レコーダーを使っているが、他の班の迷惑になるので音量を絞らざるを得ない。これが我々の授業風景だ。9月から相木先生が辞められる、痛い。初級の担当を藤川先生に願う。

2) 日時 23年2月6日

生徒の出席率が悪い。昨年来先生が次々辞められた所為もあるが、不況で失業する生徒も多く、再就職先を求めるのに時間がかかり、日本語を学ぶ余裕がないとのことだった。しかし真面目に出席していたAさんが暫く欠席で今日久しぶりに出席した。事情を聞いてみると、猛烈に仕事が忙しくなり、連日夜8時、9時まで残業で、土曜日の休みも取り消されたと言う。日曜日はくたくたで学校に来れないと言う。下請けの多い当地では、不況で極端に人員を絞ってきたが、自動車、自転車、電気製品の下請けでは、最近の景気の好転で仕事は増えたが人員は増やさず残業でまかなう事になっている。日本人の若い人と比べ、弱音を吐かず必死に頑張る彼らを見ると何とか応援したくなる。中学生一人、小学生一人、新しく参加してきた。小学生には親と一緒に来ている。松本先生が担当。良く勉強する。宿題も必ずやる。見る見るうちに上達している。成果が上がっているのを見ると、こちらも嬉しくなる。

運営委員会
堺市中国帰国者交流会



日本語教室授業風景
堺市中国帰国者交流会



4 事業に対する評価について

①当初の学習目標の達成状況

基本的には目標は日常会話の習得です。学習者の出入りが頻繁で各人の習得状況の把握は難しいですが、全般的に学習意欲は高く、恐らく普通の我々子弟が通う学校の生徒より、勉強したいという気持ちは強い。真面目です。授業中無駄話をしたり携帯電話を掛けたりする者はいません。少ない収入の中で電子辞書を買っています。一年すれば、日常会話には不自由なくなります。評判を聞いて参加を希望する人が増えています。

22年10月には、北九州市国際交流協会から視察に見えました。

②学習者の習得状況

アイウエオと日常挨拶からスタートした学習者も継続して学習を続けられれば、三ヶ月で片言話すようになります。とにかく積極的に話すことを強制しています。文法は後回しで、「てにをは」の助詞抜きでも話すことを主眼においております。上級者には、より高い読解力を付けるため著名な文学作品の講読を勧めています。

③日本語教室設置運営による効果、成果。

講師への謝礼が僅か月6,000円ですが支払いできる。幾らボランティアと言っても全くの手弁当では長続きしません。成果を挙げるには優秀な熱心な教師を集めることです。

教室設置運営が軌道に乗ってきて、地域で認められるようになった。堺市立国際交流プラザのメンバーにもなり広報誌に当学級の状況が掲載されました。日本語習得を必要とする中国人は減りません。

④地域関係者との連携による、効果、成果。

我々の日本語教室は中国帰国者交流協会の日本語教室として運営しています。中国帰国者が日本人社会に溶け込むには、地域との連携が不可欠です。正直に申して、帰国者は日本人社会にとって歓迎される存在ではありません。それどころか、蔑視、排斥をする人たちも少なからずいます。言葉の壁が大きな障壁です。我々は色々なイベントを開催し又参加しています。日帰り旅行、ふれあい祭り、料理教室、春節祭などなど。これ等は地域社会との交流の良い機会であり、日本語学習者がこれ等に積極的に参加することで、地域の人達に良い印象を与えています。

⑤改善点、今後の課題について

a 現状 日本語を習得希望の中国人は依然増えています。これに対応す

る講師が足りない。一人でも休まれるとやりくりで苦勞しています。22年度はベテランの講師が続いて辞められ補充がつかず苦勞しました。マンツーマンを原則としていますので狭い一部の教室を細かく分けて使っています。語学の勉強に必需のテープレコーダーも狭いので遣いづらい状況です。

- b 今後の課題 学習者の定着率を高める必要があります。転職で、転宅で来られなくなる。折角当方が教材を用意して待っていても、何の連絡も無く、ぱったり来なくなる。数ヶ月もして、突然現れる。この現象が講師を悩ませます。これの解決方法は今のところ見つかりません。講師が足りない、しかも皆高齢です。何とか若い講師が欲しい。謝礼がもう少し多く出せたらと考えています。
- c 今後の活動予定、展望 学習者の増大に対応して、教室を増やす。せめてあと一教室確保したい。優秀で熱心な講師を募りたい。中国人の新規来日は絶対減る事は無いと確信する。徴収する学費を値上げしたい。これによって、教室の財政状況の安定化を図りたい。
- d その他参考資料。外国人、特に中国人の増加は、当地において必ずしも歓迎されるものでない。日本と中国の関係が良くない事を反映していると思う。ボランティアの中には、これに嫌気をさして辞める人もいる。